

【HUP0 世界大会】 HUP0 2009 in Toronto 終わる

HUP0 第8回世界大会が2009年9月28日(月)-30日(水)にカナダトロントで開催されました。「ヒト健康のプロテオミクス、環境と疾患」というテーマで、159題の講演、1,124題のポスター発表がありました。講演やポスター発表のキャンセルがやや多かったような気がします。参加者は、26日(土)-27日(日)に開かれたプレングレスに600名、本大会に1,200名ほどでした。

この大会3日目に大阪大学産業科学研究所疾患糖鎖学寄附研究部門の谷口直之寄附研究部門教授が **HUP0 Distinguished Service Award** を受賞しました。この賞は、卓越した成果をヒトプロテオーム研究で挙げ、HUP0の国際的な組織運営等に著しい貢献をした研究者1名に授与される国際賞です。がんの診断に有効なバイオマーカーの基礎的研究や、糖鎖が疾患の発症機構に果たす役割を明らかにした研究、国際的な糖鎖の構造解析法の標準化研究などが評価されました。これまでの受賞者は、Young-Ki Paik (2004年)、Sam Hanash (2005年)、Catherine Fenselan (2006年)、Gill Omenn (2007年)、Richard Simpson (2008年)。谷口先生は6人目の受賞者、日本人としては初めての受賞者です。

大会総会で、2010-2012年のHUP0理事選挙が行われました。出席したHUP0会員全員の投票の結果、中村和行前会長と平野久会長が理事に選出されました。

一方、JHUP0では、2013年のHUP0第12回世界大会の開催を準備しているところですが、今回のHUP0でも2013年日本開催に関して多くの理事からの賛同をいただきました。すでにAOHUP0では理事会で日本開催支援が決議されています。来年2月頃までにHUP0でも正式に承認される見込みです。

(文責 平野)

【研究室便り-9】 千葉大学 野村研究室

今回は、千葉大学大学院医学研究院分子病態解析学講座・千葉大学医学部附属病院検査部・疾患プロテオミクス寄附研究部門教授、《野村文夫》先生にご自身の研究室のご紹介をお願いしました。

千葉大学大学院医学研究院分子病態解析学講座・

千葉大学医学部附属病院検査部・疾患プロテオミクス寄付研究部門

1993年に千葉大学医学部臨床検査医学講座として発足した当研究室は大学院化に伴い2001年より医学研究院分子病態解析学講座となり、臨床検査を特に分子レベルでとらえ、新しい疾患マーカーや疾患素因を見いだしてその知見を速やかに診療の現場に還元することをミッションとしています。当講座は附属病院の検査部・遺伝子診療部と一体となり、その管理・運営も担当しています。

当研究室がプロテオミクス研究に本格的に取り組み始めたのは、野村が着任した2000年、当時日本にまだ数台しかなかったCiphergen社のSELDI-TOF MS(プロテインチップシステム)を病院検査部の一室に設置したころからです。2002年からはプロテオーム・ペプチドーム解析で先駆的な技術開発が続けられている北里大学理学部物理学科との共同研究がスタートしました。前田忠計先生、小寺義男先生、大石正道先生からは現在に至るまで多くのご指導をいただいています。また、2003年からは千葉大学21世紀COE「消化器扁平上皮癌の最先端多戦略治療拠点」の研究の一翼を担うこととなり、プロテオーム解析関連機器の整備を推進することができました。

新しい疾患マーカー探索を目的としたプロテオミクス研究において、我々は「臨床的に新規バイオマーカーが特に必要とされている疾患・病態を優先すること」を重視しています。そのためには診療側との密接な連携が必須であり、現在までに約10の診療科から大学院生を受け入れて共同研究を進めています。プロテオーム解析では正しく診断された症例から適切に得られた検体が貴重であり、病院全体の検体が検査部に集まる利点を生かし、各診療科との連携のもと共通のプロトコールに基づく検体の採取・保存を実施しています。また、プロテオーム解析に必須なバイオインフォマティクスでは東京医科歯科大学の田中博教授の研究グループのご協力をいただいています。

有望なマーカー候補が見いだされ、診断効率において従来のマーカーと遜色のないデータが得られたとしても、測定の簡便性と経済性が完成域に達している従来の検査法に取って代わるのは容易ではありません。その実用化のためには産学連携が必要であり、2006年に附属病院内に疾患プロテオミクス寄付研究部門(日東紡)が設置されました。また、マーカー探索を通して、既知蛋白質の

未知の機能の一端が垣間見えることもあり、プロテオミクス研究の魅力は測り知れないものがあります。

研究室の構成メンバーは教員 6 名、ポスドク 2 名、大学院生 25 名（検査医学関連 17 名、診療科より 8 名）。検査部関連の大学院生はそのほとんどが社会人大学院生です。疾患プロテオミクス寄付研究部門では小寺義男先生（北里大学理学部准教授）、朝長 毅先生（医薬基盤研プロテオームリサーチプロジェクトリーダー）、島田英昭先生（東邦大学消化器外科教授）の 3 名の客員教員との連携を続けています。

研究グループの詳細については分子病態解析学講座*¹ 及び疾患プロテオミクス寄付研究部門*² のホームページをご参照ください。

*1 <http://www.m.chiba-u.ac.jp/class/moldiag/>

*2 http://www.m.chiba-u.ac.jp/class/moldiag/clinical_proteomics_index.html

（野村文夫）

お願い： 会員の皆様の研究室をご紹介下さい。

400～800 字の原稿を平野（hirano@yokohama-cu.ac.jp）宛お送り下さい。

【日本プロテオーム機構(JHUP0)の学会化について】

JHUP0 は、今年末までに学会化され、日本プロテオーム学会になります。いま JHUP0 の会員の皆様には設立発起人になっていただくと共に、継続して日本プロテオーム学会にご加入下さいますようお願いしています。なお、会費については、来年から年会(JHUP0 大会)参加者からは徴収せず、年会不参加会員からのみ 2000 円徴収する予定です。詳しい情報は、【JHUP0 通信 No. 16】をご覧ください。

お問い合わせ先

日本ヒトプロテオーム機構 (JHUP0)

事務局 庶務担当理事 朝長 毅

(独立行政法人 医薬基盤研究所 プロテオームリサーチプロジェクト)

【JHUP0 通信】は JHUP0 会員の皆様に送付しています。

【JHUP0 通信】に対するご意見をメールにてお寄せ下さい

(宛先は hirano@yokohama-cu.ac.jp)。ご意見を【JHUP0 通信】に掲載希望の場合はその旨お知らせ下さい。

【アドレス変更/配信中止】【ご質問・お問合せ】は、JHUP0 事務局 (cljhupo@secretariat.ne.jp) をお願いいたします。